

## オンライン講演会レジメ

講演題：「コロナ禍における教会のあり方を考える」

－変えなければならないことと変えてはならないこと－

講師：千里摂理教会牧師 吉田謙

### 聖書

マルコによる福音書 1 章 14 節、15 節。

ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えて、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と言われた。

ヨハネの黙示録 2 1 章 3 節、4 節。

見よ、神の幕屋が人の間にあって、神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初のは過ぎ去ったからである。

1. はじめに

2. 神戸改革派神学校の吉田隆校長が諸教会に宛てて発信された「ウイルス禍についての神学的考察」という文章の中で引用されていた宗教改革者ルターの「死の災禍から逃れるべきか」という公開書簡の言葉から思い巡らしたこと。

その 1. 「私はまず神がお守りくださるようにと祈る。そうして後、私は消毒をし、空気を入れ替え、薬を用意し、それを用いる。行く必要のない場所や人を避けて、自ら感染したり他者に移したりしないようにする。私の不注意で、彼らの死を招かないためである…。しかし、もし隣人が私を必要とするならば、私はどの場所も人も避けることなく、喜んで赴く。」

\*これは、今、それぞれの教会が心掛けていること。

\*キリストの教会は、この歴史の中で、これまでも、こういう混乱に幾度も遭遇し、それを実際に何度も乗り越えてきた。これは、今、混迷を極めている私たちにとって、大きな希望ではないか。

その2。「説教者や牧師など、霊的な奉仕に関わる人々は、死の危険にあっても堅く留まらねばならない。私たちには、キリストからの明白な御命令があるからだ。『良い羊飼いは羊のために命を捨てるが、雇い人は狼が来るのを見ると逃げる』（ヨハネ10:11)と。人々が死んで行く時に最も必要とするのは、御言葉と礼典によって強め慰め、信仰によって死に打ち勝たせる霊的奉仕だからである。」

- \*これは、私自身、しっかり心に刻まなければならないと思わされている。  
教会員に対する魂の配慮は、直接お会いする機会が少なくなってしまっただけに、これまで以上に、注意を払わねばならない。
- \*わたしの例：YouTubeのライブ配信やzoomという新たな手法の活用
- \*地域に対する働きかけ（伝道）の可能性を探る
- \*諸集会の持ち方を再検討する。

### 3. 変えてはいけないことー礼拝

- \*信仰共同体に根ざした礼拝が重要。  
（あの人、この人の顔を思い浮かべることが出来る礼拝）
- \*礼拝によって苦難を乗り越える力が与えられる。  
また真実の礼拝が捧げられていれば、それが伝道にも繋がる。  
（震災の時の経験から感じ取ったこと）

### 4. その他

- \*大会・中会の会議の代議制への移行。
- \*外部献金を捧げる時に考えて欲しいこと。

### 5. 最後に

- \*二ーバーの祈りの紹介  
「変えられるものを変える勇気と、変えられないものを受け入れる冷静さと、それら2つのものを見分ける知恵をお与え下さい。」